

新型コロナ・ワクチンに関するニュースの正誤判断と情報共有判断：
東北学院大学生を対象にしたアンケート調査の分析結果

佐々木真衣¹，安藤風香²，松永翔³

要約

本稿は、東北学院大学経済学部生を対象にアンケート調査を独自実施して、真のニュースと偽のニュースの両方を含む、新型コロナ・ワクチン関連ニュースの正誤判断と情報共有判断について分析した。具体的には、293名の回答データを使って、ニュースの正誤判断を正確にできているのか、誤情報と分かっているにもかかわらず周囲と共有しようと思う人がどれくらい存在するのか、誤情報の共有を抑制することは可能であるのか、という三つの問いを検証する。結果として、大部分の回答者が誤情報を誤情報として正確に判断できていること、誤情報であると正確に判断できている人の中にその誤情報を周囲と共有しようと思う人が一定割合存在することが分かった。また、事前にニュースの正確さを意識させる介入を行うことで、誤情報の共有を抑制できることが分かった。特に、ワクチン反対派にとって都合の良い情報の共有を防止する効果があることが分かった。よって、事前に正誤判断を意識させる介入を行うことが正確な情報共有を促すにあたって有効であると考えられる。

JEL 分類番号： D90、C90

キーワード：大学生、新型コロナ・ワクチン、アンケート調査、ランダム化比較実験、フェイク・ニュース

¹ 東北学院大学経済学部経済学科 s1920529@g.tohoku-gakuin.ac.jp

² 東北学院大学経済学部経済学科 s1920404@g.tohoku-gakuin.ac.jp

³ 東北学院大学経済学部経済学科 s1920758@g.tohoku-gakuin.ac.jp

本稿は、東北学院大学経済学部経済学科の「演習II」の一貫として、担当教員である佐々木周作先生の指導を受けながら執筆したものである。なお、本稿に含まれる誤りは全て、著者たち自身のものである。

1. はじめに

今日、インターネットが普及した世の中で SNS 上での情報共有が頻繁に行われている。その中には、「フェイク・ニュース」と呼ばれる偽のニュースが紛れ込んでいることが多々ある。例えば、新型コロナ・ワクチンを接種した際に、不妊につながったり、妊婦の母体に影響があったりというニュースは科学的に誤りだと指摘されているが、拡散して、多くの人のワクチン接種の意思決定に影響を及ぼしていると考えられる。

フェイク・ニュースを共有してしまう理由の候補には、ニュースの正誤判断が正確でない、内容が正しいか誤っているかをあまり考えずに共有してしまう、不注意による共有ボタンのクリックミスなどが考えられる。また、自分にとって都合のいいニュースばかりを無意識に集め、反証する情報を無視する、あるいは集めないという傾向もあるだろう。これは認知バイアスの一種で、確証バイアスと呼ばれる。

本研究では、2021年6～7月に、東北学院大学経済学部生を対象に独自のアンケート調査を行って、「ニュースの正誤判断を正確にできているのか」「誤情報と分かっているにもかかわらず共有しようと思う人がどれくらい存在するのか」「誤情報の共有を抑制することは可能であるのか」という三つの問いを立てた。誤情報の共有を抑制するための手段として、米国で行われた先行研究 (Pennycook,2021) の結果を踏まえ、正確さを先に判断させる介入を採用した。この研究では、実験参加者に対して党派性に関するニュースの見出しを提示し、ニュースの共有意向を把握した。その際、一部のグループで正確さを事前に意識させたことで、共有するニュースの質が向上したと報告している。本研究では、先行研究の介入が、新型コロナ・ワクチン関連のフェイク・ニュースの共有抑制に対しても効果的であるかどうかを、独自調査で得たデータを使って検証する。

2. 調査概要

2.1 アンケート調査の詳細

本研究では、事前にニュースの正誤判断をさせることで情報共有判断にどのような効果を与えるかを把握するために、回答者の学籍番号が偶数か奇数かによって、情報共有判断の質問と正誤判断の質問の順番が前後するようにアンケートを作成した。偶数グループでは、正誤判断の質問を提示した後に情報共有判断の質問を提示した(「正誤グループ」と呼ぶ)。奇数グループでは、情報共有判断の質問を提示した後に正誤判断の質問を提示した(「共有グループ」と呼ぶ)。正誤グループは148名、共有グループは143名であった。学籍番号を使用してグループ分けを行なった理由として、入学時点で学校側から決められ、自分の意思が介在しない番号であるため、ランダムなグループ分けを実現できると考えたからである。実際に、2.2節で性別・年齢・家族構成がグループ間で統計的に有意に異なることを確認しており、ランダムなグループ分けを実現できていると考えている。

調査では、新型コロナ・ワクチンの接種を受けたいかどうかについて、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の四択から答えてもらっている。

ここから、「そう思う」「ややそう思う」と回答した人々をワクチン賛成派、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と回答した人々をワクチン反対派と定義した。ワクチン賛成派は199名であり、正誤グループでは96名、共有グループでは103名であった。ワクチン反対派は94名であり、正誤グループでは49名、共有グループでは45名であった。

ニュースの見出しには、真のニュースの見出しを四つ、偽のニュースの見出しを四つの計八つを用意し、提示した。特に偽のニュースは、ニュースサイト『BuzzFeed』のファクトチェックのページを参照して作成した(2021)。使用したニュースの見出しは、表1の通りである。内訳として、ワクチン賛成派寄りのニュースの見出しを真偽二つずつ、反対派寄りのニュースの見出しを真偽二つずつ用意している。正誤判断の質問では、ニュースの見出しを見て「正しいと思う」「正しくないと思う」かを答えてもらった。情報共有判断の質問では、ニュースを家族や友人に「共有する」「共有しない」かを答えてもらった。表1には、正誤グループの正答率と共有グループの共有率も添えている。ここで正答率は、真のニュースを「正しいと思う」、偽のニュースを「正しくないと思う」と正確に判断した学生の割合を表している。

表1. ニュースの見出し

(1) 反対派：偽 (正誤グループの正答率：87.6% 共有グループの共有率：31.1%)
「新型コロナ・ワクチンは、人間の遺伝子を組み替えることを目的として開発された」
(2) 賛成派：真 (正誤グループの正答率：66.9% 共有グループの共有率：63.5%)
「2021年5月31日時点で、139名が新型コロナ・ワクチンの接種後に亡くなっているが、ワクチン接種が死亡の原因であると断定できる例はまだない」
(3) 反対派：真 (正誤グループの正答率：37.2% 共有グループの共有率：52.0%)
「奈良県で、新型コロナ・ワクチンの代わりに食塩水のみが注射された事例があった」
(4) 賛成派：偽 (正誤グループの正答率：66.2% 共有グループの共有率：52.0%)
「新型コロナ・ワクチンの接種後にアナフィラキシー・ショックが発生した例は、日本ではまだ報告されていない」
(5) 反対派：真 (正誤グループの正答率：75.2% 共有グループの共有率：57.4%)
「若者には、高齢者に比べて、新型コロナ・ワクチンの接種を希望していない人が多い」
(6) 賛成派：真 (正誤グループの正答率：51.0% 共有グループの共有率：69.6%)
「新型コロナ・ワクチンの接種で健康被害が生じた場合に備えて、救済制度が整えられている」
(7) 反対派：偽 (正誤グループの正答率：81.4% 共有グループの共有率：45.3%)
「新型コロナ・ワクチンの接種は、不妊症や流産の原因になる」
(8) 賛成派：偽 (正誤グループの正答率：90.3% 共有グループの共有率：27.0%)
「新型コロナ・ワクチンの接種を受けた人は、マスクを着用する必要はない」

本稿では、以下の三つの問いを検証する。

I ニュースの正誤判断を正確にできているのか

II 誤情報と分かっているにもかかわらず周囲と共有しようと思う人がどれくらい存在するのか

Ⅲ 誤情報の共有を抑制することは可能であるか

ニュースの見出しには、誰でも正確に正誤判断できるようなものから、新型コロナ・ワクチンに関する詳細な知識がないと判断できないものまで含まれている。そこで、Iについては、簡単に正誤判断できるものに関しては正しく判断ができていないかを、正誤判断が難しいものはどのくらいの正答率であるのかを把握する。また、誤情報を正しく判断できているかを確認するため、真のニュースと偽のニュースに分けて正答率を把握する。

次に、IIについては、間違っていると自分で判断できた情報を、周囲の人々に共有しようと思う人は少数であると考え、正答率の高いニュースほど共有率が高い、と予想する（表1よりその傾向が確認できる）。また、真のニュースと偽のニュースに分けて、正答率と共有率の関係を分析する。

最後に、IIIについては、先に正誤判断を行わせることで、ニュースの正確さを意識させることができると考える。したがって、共有グループよりも正誤グループの方で偽のニュースの共有率は低くなると予想する。また、新型コロナ・ワクチンの賛成派か反対派かによって介入効果に違いがあるかどうかとも検証する。

2.2 バランス・チェック

ここでは、正誤グループを1、共有グループを0としてXに当てはめ、性別・年齢・家族構成などの属性情報をYに当てはめて回帰分析を行った。その結果、これらの属性情報についてグループ間で統計的に有意な差は見られないことが分かった。つまり、正誤グループと共有グループは統計的に類似した人たちであると判断できる（表2）。

表2. バランス・チェックの結果

名称	共有(平均)	正誤(平均)	差分	標準誤差	t 値
女性比率	0.291	0.234	-0.056	0.052	-1.088
年齢	20.682	20.634	-0.048	0.092	-0.519
同居家族の人数	2.811	2.648	-0.163	0.185	-0.878
祖父母がいるか	0.223	0.283	0.060	0.051	1.176

3. 結果

3.1 問Iの検証

八つのニュースの正答率の平均は、先に正誤判断質問に回答した正誤グループで69.5%であった(30.5%が誤解している)。さらに、フェイク・ニュースである(1)(7)に着目すると、(1)のニュースの正答率は87.6%、(7)のニュースの正答率は81.4%であった。つまり、8～9割の回答者は、偽のニュースを間違いであると正確に判断できていることが確認された。

3.2 問IIの検証

先述の通り、正誤グループにおける八つのニュースの平均正答率は 69.5%であったのに対して、先に情報共有質問に回答した共有グループの共有率は 49.7%であった。また、3.1節と同様に、(1)(7)のニュースに着目すると、(1) のニュースの正答率は 87.6% (12.4%が誤解している) であるのに対し、共有率は 31.1%であった。(7) のニュースの正答率は 81.4% (18.6%が誤解している) であるのに対し、共有率は 45.3%であった。したがって、誤情報であると正確に判断できている人の中に、その誤情報を周囲と共有しようと思う人が一定割合存在していることが分かった。

3.3 問IIIの検証

表 3 には、回答者全員の推定結果と賛成派・反対派グループに分けた推定結果を示した。正誤グループのときに 1、共有グループのときに 0 を取る変数を説明変数とし、被説明変数である共有ダミーに対して回帰分析を行っている。ここで、共有ダミーは、「共有する」と回答した場合に 1、「共有しない」と回答した場合に 0 を取る変数である。

表 3. 全体の推定結果と賛成・反対派グループ別の推定結果

			賛成派寄りの 真のニュース		賛成派寄りの 偽のニュース		反対派寄りの 真のニュース		反対派寄りの 偽のニュース	
			(2)	(6)	(4)	(8)	(3)	(5)	(1)	(7)
全体	N=293	正誤判断	-0.33***	-0.21***	-0.24***	-0.06	-0.13**	-0.19***	-0.15***	-0.14**
			(0.06)	(0.06)	(0.06)	(0.05)	(0.06)	(0.06)	(0.05)	(0.06)
		定数項	0.64***	0.70***	0.52***	0.27***	0.52***	0.57***	0.31***	0.45***
			(0.04)	(0.04)	(0.04)	(0.04)	(0.04)	(0.04)	(0.03)	(0.04)
賛成派 グループ	N=199	正誤判断	-0.32***	-0.17**	-0.23***	-0.03	-0.13*	-0.16**	-0.10*	-0.13*
			(0.07)	(0.07)	(0.07)	(0.06)	(0.07)	(0.07)	(0.06)	(0.07)
		定数項	0.64***	0.71***	0.53***	0.22***	0.52***	0.55***	0.25***	0.41***
			(0.05)	(0.05)	(0.05)	(0.04)	(0.05)	(0.05)	(0.04)	(0.05)
反対派 グループ	N=94	正誤判断	-0.36***	-0.28***	-0.24**	-0.15	-0.10	-0.28***	-0.24**	-0.17
			(0.10)	(0.10)	(0.10)	(0.09)	(0.10)	(0.10)	(0.09)	(0.10)
		定数項	0.62***	0.67***	0.47***	0.38***	0.49***	0.62***	0.40***	0.56***
			(0.07)	(0.07)	(0.07)	(0.07)	(0.07)	(0.07)	(0.07)	(0.07)

注) () 内は標準誤差。* は、p 値がそれぞれ、*** $p < 0.01$ 、** $p < 0.05$ 、* $p < 0.1$ を示す。

3.3.1 全体の検証

表 3 から、正誤判断が共有ダミーに対して負の効果を持っていることが示された。また、(1)~(7)のニュースでは、その効果が有意水準 5%以下で統計的に有意であった。つまり、事前に正誤確認させることが全体的にニュースを共有する意思を引き下げたということである。特に、(1)(7)のニュースについては、正誤グループで、誤認者の割合と共有率が近くなっていた。予め正確さを意識させたことで、不正確なものを他者と共有してはいけないという考えが強まったと考えられる。一方、(2)(6)のような真のニュースの共有をも抑制する

可能性があることも分かった。

3.3.2 ワクチン賛成派・反対派の検証

賛成派・反対派グループ別の推定結果は、全体と比較すると、統計的に有意な結果が観察されにくくなったが、これは標本数が少ないことが影響していると考えられる。いくつかのニュースについては、反対派グループの方が負の係数が大きく、全体の推定結果により影響を与えていると考えられる。つまり、社会のワクチン接種を妨害する情報を共有しやすいと考えられるワクチン反対派で、事前に正誤判断をすることによって不正確なものを他者と共有してはいけないという考えがより強くなっていると解釈できる。特に、(1)のような偽のニュースであっても共有を抑制できることが分かった。

4. まとめ

本研究から、フェイク・ニュースだと分かっているにもかかわらず共有してしまう人がいるとともに、人々にそうさせてしまう記事が社会に存在するという課題が浮き彫りになった。一方で、本研究の検証から、予めニュースの正確さを意識させることに、ワクチン反対派にとって都合の良いニュースの共有率を下げる効果が観察された。したがって、SNS のようなコミュニケーション・ツールにおける正誤判断を促すメッセージのような介入にフェイク・ニュースの拡散を防止する効果があるのではないかと考えられる。しかし、介入は、反対派にとって都合の悪いニュースの共有率も下げる可能性があることも分かった。さらに、正確さを意識させるだけでは、フェイク・ニュースのような誤情報の共有・拡散をゼロにはできないことも分かった。あらゆる情報が飛び交うインターネットの世界で、より正しいニュースを選び、知識を得られるようにするために、共有抑制のための研究は今後も続けられるべきである。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、感染対策やコロナ・ワクチンに関する私たちの知識を正確なものにしていく必要がある。そのためにも、本研究のデータに基づき、より正確な情報共有の実現に繋げていくことが重要である。

参考文献

BuzzFeed. (2021). FACT CHECK. <https://www.buzzfeed.com/jp/badge/factcheckjp>

Pennycook, G., Epstein, Z., Mosleh, M., Arechar, A. A., Eckles, D., & Rand, D. G. (2021). Shifting attention to accuracy can reduce misinformation online. *Nature*, 592(7855), 590-595.